

千葉、茨城の2ルート「ニューノーマル」時代へ対応

道の駅側も、学識者による同省の「道の駅」第3ステージ推進委員会が、地方創生の重要な柱として日本風景街道との連携促進等の具体策をまとめるよう提言している。

「2030年にインバウンド(訪日外国人旅行者)6000万人、

南房総・花街道Ⅱ千葉県館山、南房総、鴨川市、鋸南町

太平洋と東京湾に面し、緑深い山々もある南房総は、美しい自然景観に加え歴史、文化資源なども多く、東京近郊の一大レジャー、レクリエーションゾーンだ。花街道ルートは、点在する魅力ポイ



植え。下はサイクリスト向け案内タペストリー



ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。

同消費額15兆円」という政府の観光立国ビジョン構想は、コロナ禍で実現が厳しいが、風景街道と道の駅の連携協働がうまく結実すれば、本格的に地方創生が動き出し成長戦略の柱になる、と国交省も期待している。

ルートのおすすめが、奇観の鋸山や崖観音、大山千枚田、館山城、海女の活躍する白浜海岸、鯨文化の残る和田浦港などを巡るサイクリング14コース、ウォーキング11コース。

このうち、モデル道の駅として観光バスが集まる「とみうら」はじめ12もある道の駅や観光スポット周辺では、市民グループが中心になり「おもてなしです。訪ねて来てくださる方に喜ばれるのがうれしいのです」と、花々の植栽を進めてきた。

JR館山駅前の花植えや手入れ、清掃活動をほぼ毎日早朝、ルート発足以前から20年以上も続けている館山市の服部初恵さんは「初めての海外旅行でヨーロッパの素敵な街並みに魅せられ、帰国したら駅前が寂しく汚れていたのがつかり。これではいけないと一念発起しました。ガーデニングも本格的に勉強してこれまで元気にやってこれる、このころは会社をり

タイアした夫も手伝ってくれるので楽しい。できる限り続けます」となお意欲を燃やす。

いたこ あやめ 花街道Ⅱ茨城県潮来市



潮来駅に到着したサイクリストのお出迎え



道の駅「いたこ」前の花植えボランティア

OKのサイクルステーション整備を進め、昨年度からはルート統一デザインの案内表示タペストリーを要所に掲示してサイクリストを誘っている。

霞ヶ浦、北浦、北利根川などの湖沼や河川に囲まれ、水路が複雑に走る水郷・潮来。昔から江戸への水運の要衝として栄え、群生するあやめ、花菖蒲の花見客でもにぎわった歴史を持つ。大戦後に大火で壊滅しかけたが、明治神宮から譲り受けた花菖蒲類を増やして広さ1・3畝、500種100万株の水郷潮来あやめ園として再生した。花街道ルートの活動もやはり、この人気スポットと周辺が中心になっている。

見ごろの5〜6月に開かれるあやめまつりには例年、昔の風習を復活させた「嫁入り舟」のイベントに全国公募から選ばれた花嫁・花婿が参加するほか、サツパ(手漕ぎ舟)遊覧体験客、見物客で盛り上がる。

昨年と今年ではコロナ対策による大半のイベント中止で入園者も大幅に減ったが、市の入り口である東関東道・潮来インターから道の駅「いたこ」を通りあやめ園へ通じるルート沿道には、活動団体が

毎年手分けして植栽してきた桜藤、菖蒲、紫陽花が今年も忘れず色とりどりに咲き誇った。秋にはコスモスも。

活動団体の主力「道の駅いたこサポータークラブ」の給前優さんは語る。「あやめ園の魅力を見ごろ時期以外にも、水郷地域全体にも広げていきたいからです」

JR東日本が南房総地域で実施中のキャンペーン、サイクリング車を積み込める特別列車「B・B・BASE」運航とも連携している。潮来駅に到着したサイクリストたちのお出迎えセレモニーに、原浩道市長があやめ娘と一緒に参加したこともある。